

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)吹田市市長野東商業施設新築	階数	地上2F
建設地	吹田市市長野東	構造	S造
用途地域	第1種住居地域、25m第4種高度地	平均居住人員	2,024 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,110 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,病院,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2019年5月10日
敷地面積	5,198 m ²	作成者	(株)掛谷工務店 大澤秋雄
建築面積	3,199 m ²	確認日	2019年5月14日
延床面積	3,903 m ²	確認者	(株)掛谷工務店 大澤秋雄



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合	交通量の多い道路に面するため、遮音対策に配慮し、快適性に重視した設計とした。	その他 0
Q1 室内環境	居室の窓を大きくし、通風・採光の確保に努め、快適な住空間を目標とした。また、断熱性の向上を図った。使用建材はF☆☆☆☆製品とし、化学物質汚染被害を防止した。	Q2 サービス性能 将来の更新を想定し、全室ビームヒーターを採用した。階高を十分に確保し、設備機器等の更新に備えた。
Q3 室外環境(敷地内)	外壁材(タイル)の彩度を落したデザインとし、周囲への太陽光の反射やゲリラの軽減を図った。	LR1 エネルギー 日射遮蔽性を図り、断熱性能を高めるよう、ペアガラス(ペアガラス)奥行を広く計画した。
LR2 資源・マテリアル	限りある資源を有効に利用する。ABC消火剤を使用しない。	LR3 敷地外環境 適切な量の駐車・駐輪スペースを設けた。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

H31-0031

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	(仮称)吹田市長野東商業施設新築工事					
		建設地	吹田市長野東					
		用途/区分	物販店 病院 工場					
【評価結果】		CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					4		
②	みどり・ヒート アイランド対策					2		
③	建物の断熱性					5		
④	エネルギー削減					4		
⑤	自然エネルギー直接利用					—		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない		
【評価項目】								
項目		評価内容			スコア	評価		
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価			3.9	4		
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価			2.0	2		
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価			2.0			
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価			3.0			
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価			5.0	5		
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価			3.9	4		
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価			3.0	—		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。			報告する 報告しない	報告しない		
その他								
		技術の名称	考慮事項					
先進的技術の導入								
特に配慮した事項								